

プロジェクトに求めるもの

1 研究プロジェクトの種類

A 実践プログラム

地球環境問題の解決に向けた学術的研究の実施と社会における協働実践を通じて、人々の意識・価値観や社会の具体的なあり方の転換などの選択肢を構築・提示する。

B コアプログラム

実践プロジェクトと緊密に連携し、社会との協働による地球環境問題の解決のための横断的な理論・方法論の確立を行う。

2 実践プロジェクトに求めるもの

- (1) 解決すべき地球環境問題の明確化
地球環境問題が独自の視点から明確に定義されていること。
- (2) 学際的統合
課題解決に向けて必要な学問分野を有機的に統合するものであること。
- (3) トランスディシプリナリティ（超学際研究）
研究成果が学術コミュニティにおけるインパクトにとどまらず、地球環境問題の解決を促す可能性を持ち、社会の多様なステークホルダーと協働したプロセスを可能な限り取り入れた研究であること。
- (4) 既存の研究リソースの活用方法の明確化
当該の研究課題に関する豊富な研究リソースを活用した地球環境問題の解決への道筋を示すこと。
- (5) 独創性
地球環境学にかかわる独創的なアイデアに基づき、地球環境問題の解決に資する新しい枠組みを提案し、既存の地球環境研究に新たな視点を提供できること。
- (6) 成果発信の戦略性・国際性
研究の成果が社会への実装と国際発信を含む戦略性を有すること。
- (7) 実践プログラムへの貢献
実践プログラムのミッション達成に向けて貢献できること。

3 コアプロジェクトに求めるもの

- (1) 理論・方法論の必要性と革新性
提案する理論・方法論が地球環境問題解決に必要かつ革新的なものであること。
- (2) これまでの研究リソースの活用
地球研や既存の地球環境研究のリソースが活かされていること。
- (3) 実践プロジェクトとの連携
提案する理論・方法論が複数の実践プロジェクトと協創可能であること。
- (4) 理論・方法論の活用方法
プロジェクトで構築される理論・方法論が地球研内外で活用されるものであること。
- (5) コアプログラムへの貢献
コアプログラムのミッション達成に向けて貢献できること。